



【指導事例 1】

1 主 題 「公正、公平にふるまうことの大切さ」〔公正、公平、社会正義〕

2 ねらい

留岡幸助の生き方を通して、誰に対しても公正、公平に振る舞うことの大切さに気付き、偏見や差別のない社会を実現しようとする態度を育てる。

3 教材について（教材の生かし方や人物像）

本教材は、家庭学校をつくり、家庭的な愛情の中で子どもたちを育てようとした留岡幸助の功績に触れることを通して、この世の中から、あらゆる差別や偏見をなくすように努力し、公平で公正な明るい社会の実現に積極的に努めようとする態度を養うことをねらいとしています。

前半では、町人の子どもとして生まれた留岡幸助が、幼少期に、身分制度によって理不尽な差別を受け、差別について深く考えさせられる様子が示されています。

後半では、「人間を育てるためには、家庭的な愛情が必要である」との考えから、遠軽町に家庭学校を設立し、そこに通う子どもたちが大自然の中で生き生きと生活する姿に喜びを感じている留岡幸助の姿が示されています。

指導に当たっては、誰に対しても深い愛情で接する主人公への自我関与を通して、公平、公正に振る舞うことの大切さについて考えを深めていくことが重要です。

4 展開例－①「差別や偏見のない社会を築くことについて、留岡幸助の家庭学校で過ごす子どもたちへの願いを通して、公正、公平にふるまうことの大切さについて考える展開」

	●学習活動 ○主な発問 ◎中心的な発問 ・予想される子どもの反応	・指導上の留意点（■評価）
導入	<ul style="list-style-type: none"> ● 周囲の人たちとの接し方について話し合う。 ○ 普段、苦手な人に対して、どのように接していますか。 ・嫌だけれども仕方がないので我慢して接する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ねらいとする道徳的価値への方向付けをする。
展開	<ul style="list-style-type: none"> ● 教材「願い」を読み、話し合う。 ○ 父の「士族の子に歯向かうのは町人のすることではない」という言葉に、留岡幸助はどんな思いを抱きましたか。 ・悪いのは武士の方なのに町人だからという理由は、納得がいけない。 ・先に手を出してきたのは相手の方なのにどうして自分だけが怒られるのかな。 ○ 周囲の反対を押し切ってまで、北海道の監獄（刑務所）へ赴いた留岡幸助には、どんな思いがあったのでしょうか。 ・どんな人も幸せになるべきだ。 ・その人たちを救いたい。 ◎ 家庭学校で過ごす少年たちの目を見て、幸助はどんな「願い」が叶いつつあると感じたのでしょうか。 ・どんな立場の人間も幸せになれる世の中を実現できる。 ・どんな人にも愛情を注ぐと、成長できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ人間なのに、身分の違いで差別を受けることの理不尽さについて考える場を設ける。 ・登場人物の少年時代の理不尽な体験から、人としての在り方や、誰に対しても公正、公平に接することができるようにする。 ・どういう立場の人であっても、他者を尊重することの大切や、誰もが社会の一員として生活できることについて多面的・多角的に考える場を設ける。
終末	<ul style="list-style-type: none"> ● 公正、公平な態度について自分との関わりで考える。 ○ どんな人間も平等で、明るく偏見のない社会にしていけるために、あなたにできることは何でしょうか。 ・どんな人にも、同じ態度で接し、差別やいじめの場面を見たら、進んで注意する。 ・間違っている人がいたら、逃げないで、正しいことをしっかりと伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・交流を通して友達の考え方のよさに気付き、差別や偏見のない社会を築くために、今後、自分ができることに気付くことができるようにする。 ■ 差別や偏見について、自分との関わりの中で考えている。
終末	<ul style="list-style-type: none"> ● 本時の学習を振り返り、学んだこと、考えたことについてワークシートに記入する。 ※差別や偏見について具体的な場面を想起し、これからの生活について考えられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・差別や偏見のない社会を築こうとする態度が育まれるようにする。

【指導事例 2】

1 主 題 「公正、公平にふるまうことの大切さ」〔公正、公平、社会正義〕

2 ねらい

公平な社会の実現に努力した先人の生き方について考えることを通して、誰に対しても差別意識や偏見をもつことなく、公正、公平に接し、正義の実現に努めようとする態度を育てる。

3 展開例—②「家庭学校に込められた留岡幸助の願いについて考える活動を通して、『公平』の意味及び『公正・公平』に振る舞うことについて考える展開」

4 主な学習活動

(1) 公平とはどういう意味の言葉で、公平が必要な場面はどんな場面でしょうか。

- ・公平とはみんな同じということ。平等であるということ。
- ・食べ物を分けたり、みんなで一緒に遊ぶときに公平は必要である。
- ・どんな場面でも公平は大切である。

(2) 家庭学校に込められた留岡幸助の願いは何だったのでしょか。

- ・どんな人間にも同じ権利（生活、愛情、自由、幸せ等）があることを知ってほしい。
- ・どんな人間にも愛情を感じ取ってほしい。
- ・どんな人間にもやさしくなしてほしい。

(3) 公平な世の中にしていくために、あなたができることは何でしょう。

- ・他の人のことを考える、周りをよく見る。
- ・一人一人のよいところを探す。
- ・みんなの意見を聞くようにする。

□ 活用場面例（道徳科以外での活用事例）

■ 社会科

江戸時代の人々のくらしの学習において、理不尽な厳しい差別を受けざるを得ない人たちがいたことに触れるとともに、本教材の留岡幸助の「どんな人間も同じである」という強い信念の下、理想とする社会の実現に向けて尽力する生き方を扱うことを通して、公正、公平な態度を培うことができるようにする。

■ 家庭科

家族や近隣の人々との関わりについての学習において、本教材を読むことを通して、人と関わることへの関心を高め、よりよい生活にしていくためには、多くの人々との関わりが大切であることについて考えを深めることができるようにする。

■ 特別活動（学級活動）

日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全に関する指導において、留岡幸助が受けた理不尽な差別について考える活動を通して、どのような人間関係を構築することが望まれるか、人権を尊重する態度とはどういうことであるかについて理解を深めることができるようにする。

■ 家庭や地域との連携

学級通信等において、本教材を活用した学習の様子を家庭に伝えたり、各家庭において、差別や偏見について話し合ってもらったりすることを通して、公正、公平な態度や正義の実現に向けて努めようとする実践意欲を高めることができるようにする。